

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年6月28日

【事業年度】 第177期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

【会社名】 株式会社帝国ホテル

【英訳名】 IMPERIAL HOTEL, LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 定保英弥

【本店の所在の場所】 東京都千代田区内幸町一丁目1番1号

【電話番号】 03 - 3504 - 1111 (代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 杉山和久

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区内幸町一丁目1番1号

【電話番号】 03 - 3504 - 1111 (代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 杉山和久

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第173期	第174期	第175期	第176期	第177期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (百万円)	53,155	53,754	55,813	56,031	57,236
経常利益 (百万円)	3,882	4,110	4,303	5,165	4,961
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	2,314	2,421	3,163	3,689	3,399
包括利益 (百万円)	2,452	2,538	3,073	3,887	3,740
純資産額 (百万円)	47,098	48,487	50,789	53,727	56,577
総資産額 (百万円)	66,700	70,214	73,460	74,667	79,225
1株当たり純資産額 (円)	793.92	817.32	856.14	905.66	953.71
1株当たり当期純利益 (円)	39.01	40.82	53.32	62.19	57.30
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	70.6	69.1	69.1	72.0	71.4
自己資本利益率 (%)	4.9	5.1	6.4	7.1	6.2
株価収益率 (倍)	56.0	62.6	45.7	33.5	37.6
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	4,231	6,060	7,189	4,959	7,964
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,183	1,956	6,388	3,635	4,928
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	741	713	771	949	890
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	22,490	25,880	25,909	26,283	28,429
従業員数 (名)	1,865	1,922	1,941	1,976	1,983
(外、平均臨時雇用者数)	(1,130)	(1,091)	(1,035)	(996)	(1,005)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株を2株に分割いたしました。これに伴い、第173期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第173期	第174期	第175期	第176期	第177期
決算年月		平成26年 3 月	平成27年 3 月	平成28年 3 月	平成29年 3 月	平成30年 3 月
売上高	(百万円)	52,654	53,245	55,285	55,475	56,678
経常利益	(百万円)	3,758	4,028	4,210	5,035	4,793
当期純利益	(百万円)	2,229	2,387	3,111	3,602	3,268
資本金	(百万円)	1,485	1,485	1,485	1,485	1,485
発行済株式総数	(千株)	59,400	59,400	59,400	59,400	59,400
純資産額	(百万円)	46,844	48,310	50,631	53,437	56,010
総資産額	(百万円)	64,696	68,112	71,403	72,565	77,113
1株当たり純資産額	(円)	789.47	814.17	853.29	900.57	943.95
1株当たり配当額 (内 1株当たり中間配当額)	(円)	18 (12)	13 (6)	15 (6)	15 (7)	15 (7)
1株当たり当期純利益	(円)	37.58	40.24	52.43	60.71	55.09
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)					
自己資本比率	(%)	72.4	70.9	70.9	73.6	72.6
自己資本利益率	(%)	4.8	5.0	6.3	6.9	6.0
株価収益率	(倍)	58.1	63.5	46.5	34.4	39.1
配当性向	(%)	31.9	32.3	28.6	24.7	27.2
従業員数 (外、平均臨時雇用者数)	(名)	1,765 (714)	1,820 (703)	1,844 (669)	1,879 (687)	1,891 (674)

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株を2株に分割いたしました。これに伴い、第173期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。
4 第173期の1株当たり配当額は、平成25年10月1日付で普通株式1株を2株に分割したため、中間配当額を株式分割前の12円、期末配当額を株式分割後の6円(株式分割前では12円)とし、年間配当額は単純合計額である18円と記載しております。なお、当該株式分割を考慮しない場合の年間配当額は、24円(中間配当額12円、期末配当額12円)となります。
5 第175期の1株当たり配当額15円には、記念配当1円を含んでおります。

2 【沿革】

明治20年12月	時の財界有力者渋沢栄一、大倉喜八郎両氏等の発起に依り資本金26万円の有限会社帝国ホテルを設立
23年11月	帝国ホテル落成、開業
26年7月	帝国ホテル株式会社と改称
40年1月	株式会社メトロポールホテルを合併し社名を株式会社帝国ホテルと変更、資本金120万円
昭和8年5月	上高地帝国ホテル起工、スイス式山小屋風の木造4階建てで10月完成
20年9月	連合軍総司令部直属の将官宿舎として接收される。
27年3月	接收を解除される。
36年10月	東京証券取引所市場第二部に上場
45年1月	帝国商事株式会社(商号変更 現 (株)帝国ホテルサービス)に営業の一部を譲渡(現・連結子会社)
45年3月	本館落成
48年2月	帝国ホテルハイヤー株式会社(現 (株)帝国ホテルハイヤー)設立(現・連結子会社)
52年8月	上高地帝国ホテル改築落成、9月営業再開
58年3月	インペリアルタワー落成
平成2年3月	株式会社アイ・エイチ・エス(商号変更 現 (株)帝国ホテルエンタープライズ)設立(現・連結子会社)
2年11月	開業100周年
8年3月	帝国ホテル大阪開業
9年1月	東京国際フォーラムのケータリングサービス事業を運営受託
12年11月	ザ・クレストホテル柏を開業し、その運営を(株)帝国ホテルエンタープライズに委託

3 【事業の内容】

当社の企業集団は、当社、子会社5社及び関連会社2社で構成されており、ホテル及び料飲施設の運営・不動産賃貸事業並びにそれらに付帯するサービス事業活動を展開しております。

当社グループの事業に係わる位置付け及びセグメントとの関連は次のとおりであります。

なお、セグメントと同一の区分であります。

ホテル事業 ……当社、子会社5社及び関連会社2社で事業を営んでおります。

不動産賃貸事業……当社が営んでおります。

子会社、関連会社及びその他の関係会社の主な事業内容

子会社

㈱帝国ホテルエンタープライズ	コミュニティホテル並びにレストラン・研修施設等の運営及びホテル付帯サービス
㈱帝国ホテルサービス	ホテル付帯サービス及び不動産の管理
㈱帝国ホテルハイヤー	一般乗用旅客自動車運送及び駐車場管理
IMPERIAL HOTEL AMERICA, LTD.	北米地区における販売及びマーケティング活動
IMPERIAL HOTEL ASIA PTE. LTD.	アジア地区における販売及びマーケティング活動

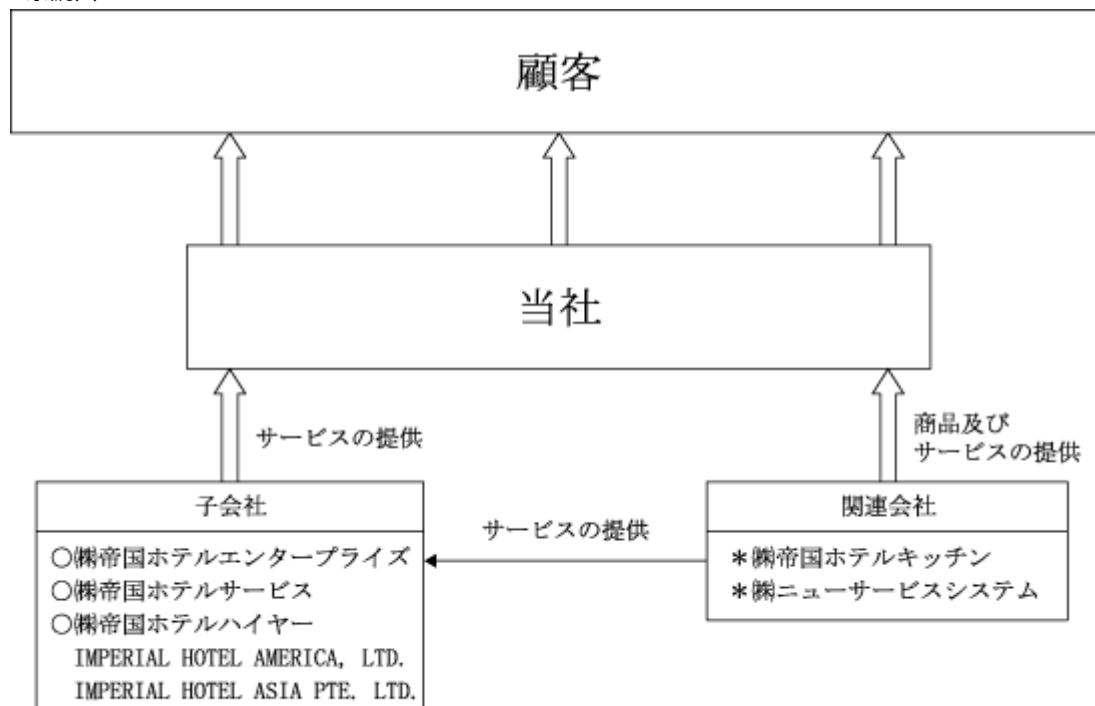
関連会社

㈱帝国ホテルキッチン	調理食品の製造及び売買
㈱ニューサービスシステム	バンケットサービス及び不動産の管理・清掃

その他の関係会社

三井不動産㈱	不動産業
--------	------

事業の系統図



○ 連結子会社 * 持分法適用関連会社 無印 非連結子会社で持分法非適用会社

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有(被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
(連結子会社) ㈱帝国ホテルエンタープライズ	東京都 千代田区	100	コミュニティホ テル及びホテル 付帯サービス	100		コミュニティホテル等の運営受託 役員の兼任等 有
㈱帝国ホテルサービス	東京都 千代田区	10	ホテル付帯サー ビス及び不動産 の管理	100		清掃、警備及び不動産管理業務の 受託 役員の兼任等 有
㈱帝国ホテルハイヤー	東京都 千代田区	10	一般乗用旅客自 動車運送及び駐 車場管理	100		駐車場管理業務の受託 役員の兼任等 有
(持分法適用関連会社) ㈱帝国ホテルキッチン	東京都 千代田区	10	調理食品の製造 及び売買	50		当社商品の製造販売 役員の兼任等 有
㈱ニューサービスシステム	東京都 港区	40	バンケットサー ビス及び不動産 の管理・清掃	50		バンケットサービス及び清掃業務 の受託 役員の兼任等 有
(その他の関係会社) 三井不動産㈱ (注)	東京都 中央区	339,766	不動産業		33.22	役員の兼任等 有

(注) 有価証券報告書の提出会社であります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
ホテル事業	1,886(1,005)
不動産賃貸事業	19
全社(共通)	78
合計	1,983(1,005)

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
1,891(674)	37.5	14.1	5,604

セグメントの名称	従業員数(名)
ホテル事業	1,804(674)
不動産賃貸事業	19
全社(共通)	68
合計	1,891(674)

(注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

当社及び子会社の従業員の組織する労働組合は、帝国ホテル労働組合と称し、サービス・ツーリズム産業労働組合連合会に所属しております。

なお、労使の関係は円満で、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1)経営方針

帝国ホテルグループは、最も優れたサービスと商品の提供をもって、お客様のゆとりある生活と文化の向上に貢献することを基本理念とし、グループ各社とともに『顧客第一主義』、『現場第一主義』及び『成果第一主義』を行動の統一指針として経営の諸活動に取り組んでおります。環境の変化に対して的確に対応し、お客様からの高い評価と厚い信頼を得ることによって、企業価値を高め、継続的な成長と収益を実現できる経営体質の確立を目指します。

(2)経営環境及び対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、雇用・所得環境の改善等により国内景気は緩やかな回復が続くものと期待されますが、国際間の貿易摩擦問題など、先行きの不透明感が強まることが予想されます。

ホテル業界におきましては、訪日外国人客数のさらなる増加や企業収益の改善を背景とした法人需要の拡大が期待されますが、競合ホテル間での販売競争が一層激化するなど厳しい経営環境が予想されます。

このような環境のもと、当社グループといたしましては、市場の動向を見据えた積極的な販売施策と的確な価格政策を継続するとともに、より高品質な商品・サービスの提供に努め、特に外国人富裕層のさらなる利用拡大を図るなど売上げの増進に全力を注いでまいります。加えて、3月の『東京ミッドタウン日比谷』のオープンを契機とし、地域と連動した効果的な広報活動を積極的に展開するなど集客と売上げの拡大に注力してまいります。

一方、経費面におきましては、今後もサービス向上に向けた人件費、業務委託費等の増加が見込まれますが、業務全般の効率化による諸経費の削減を図り、利益の向上に一層の経営努力を続けてまいります。

さらに、ダイバーシティの推進や全社的なリスク管理体制の強化とコーポレートガバナンスの充実を図るなど、ESG（環境・社会・ガバナンス）に配慮した取り組みを推進し、社会的責任を積極的に果たしてまいります。

「中期経営計画2016-2018」の最終年として、4つの重点課題である「安全性の追求」、「帝国ホテルブランドの向上」、「顧客満足の追求」、「イノベーションへの挑戦」に鋭意取り組み、常に変化する顧客や社会のニーズを的確に捉えた新たな商品・サービス・社会的価値の創造へグループ一丸となって邁進してまいります。

2 【事業等のリスク】

当社グループは事業等のリスクに関し、組織的・体系的に対処することとしておりますが、当社グループの経営成績及び財政状態に重大な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。なお、本項における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであり、事業等のリスクはこれらに限定されるものではありません。

自然災害、感染症の発生やテロ、戦争の勃発

大規模な地震や台風等の自然災害の発生は、当社グループの所有する建物、施設等に損害を及ぼし、一時的な営業停止による売上減や修復のための費用負担が発生する可能性があります。また、新たな疾病や感染症の発生や蔓延及びテロ行為や戦争の勃発等の世界情勢の変化は、海外渡航の自粛による訪日外国人利用客の減少、レジャーや祝事に対する消費マインドの減退が予想され、当社グループの業績に影響する可能性があります。

食の安全に関わる問題

当社グループは、食に関わる全社横断的な組織として「食の安全と信頼委員会」を設置し、食中毒対策、食品衛生、食品表示、アレルギー対策、防除等に取り組むなど、食の安全管理には磐石な体制を構築しておりますが、ノロウイルス等による食中毒や大規模な食品汚染の発生等食品衛生や食の安全、安心に関する問題が発生した場合、当社グループの業績に影響する可能性があります。

個人情報や営業上の秘密情報の漏洩

顧客の個人情報や営業上の秘密情報の管理は、社内の情報管理、監視部門が中心になり、外部への流出防止を行っておりますが、情報の漏洩が発生した場合、当社グループ全体への信用の失墜とブランドの低下ならびに損害賠償等の費用負担により、当社グループの業績に影響する可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(経営成績等の概要)

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、不安定な国際情勢などの影響が懸念されましたが、企業収益や雇用情勢の改善などを背景に景気は緩やかな回復を続けてまいりました。

ホテル業界におきましては、訪日外国人客数が過去最高を記録するなど、宿泊を中心に需要の拡大が継続いたしました。一方、新規ホテルの開業等による客室の供給増や競合ホテル間での価格競争の激化など、厳しい経営環境となりました。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、市場の動向に対応した営業活動と的確な価格政策に努めるとともに、外国人富裕層の利用拡大に向けた営業活動を強力に推進するなど、売上げの増進に全力を注いでまいりました。

また、「フランク・ロイド・ライト生誕150周年」を記念した催事や商品販売、提携ホテル『ハレクラニ』や各国大使館と協働した多彩な外国催事の開催など、話題性のある企画と商品開発に積極的に取り組み、集客と売上げの向上に邁進してまいりました。加えて、当社グループが継承する歴史と伝統を国内外に広く発信するべく、本館1階に常設の展示スペース「インペリアル タイムズ」を新設するなど、ブランド力のさらなる強化に努めてまいりました。

さらに、当連結会計年度は各国重要賓客の宿泊が相次ぎ、当社グループが有する「ハードウェア」「ソフトウェア」「ヒューマンウェア」の総力を結集した接遇により、高い評価を得ることができました。

設備面におきましても、本館のスイートルームおよび鉄板焼レストラン『嘉門』の改修や大阪のカジュアルレストラン『カフェ クベール』の新規開店など、競争力の強化と顧客満足のさらなる向上を目指し、諸施設の改善に取り組んでまいりました。

一方、経費面におきましては、業務全般の効率化による諸経費の削減に努め、利益の向上にグループ一丸となって努めてまいりましたが、サービス向上とさらなる安全・安心の確保に向けた人件費や業務委託費の増加を補うには至りませんでした。

以上の結果、当連結会計年度における当社グループの売上高は、前期比2.2%増の57,236百万円となり、営業利益は前期比4.8%減の4,698百万円、経常利益は前期比4.0%減の4,961百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比7.9%減の3,399百万円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

ホテル事業

宿泊は、繁閑に応じた価格政策により、インターネット経由の個人客やインバウンドが好調に推移し、稼働率は前年を上回りましたが、一室単価は前年を下回った結果、売上高は前年並みとなりました。

食堂は、鉄板焼レストラン『嘉門』や大阪のカジュアルレストラン『カフェ クベール』の改修工事による影響もありましたが、多彩な外国催事や企画商品、バー・ラウンジを中心に顧客ニーズに即したメニューが好評であったことなどから、売上高は前年を上回る結果となりました。

宴会は、一般宴会は、社長就任披露や周年記念等の大型宴会の受注が好調であり、婚礼も、市場のニーズを捉えた販売施策を積極的に展開した結果、売上増となりました。

以上のことなどから、売上高は前期比2.2%増の53,431百万円となりましたが、営業費用増もあり、営業利益は前期比1.8%減の4,987百万円となりました。

不動産賃貸事業

賃料改定の効果もあり、売上高は前期比0.9%増の3,825百万円となりましたが、設備改修などにより、営業利益は前期比3.8%減の2,016百万円となりました。

財政状態の概要は、次のとおりであります。

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べて4,558百万円増加し79,225百万円となりました。負債は、前連結会計年度に比べて1,708百万円増加し22,648百万円となりました。純資産は、前連結会計年度と比べて2,850百万円増加し56,577百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、28,429百万円となり、前年同期と比べ2,146百万円(8.2%)増加いたしました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益や減価償却費などにより増加し、法人税等の支払いなどにより減少したことにより、前年同期と比べ3,005百万円(60.6%)増加し、7,964百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が前期に比べて増加したことなどにより、前年同期と比べ1,292百万円（35.6%）増加し、4,928百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いが前期に比べて減少したことなどにより、前年同期と比べ59百万円（6.3%）減少し、890百万円の支出となりました。

（生産、受注及び販売の実績）

(1) セグメント売上高

セグメントの名称	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	金額(百万円)	金額(百万円)
ホテル事業	52,262	53,431
帝国ホテル本社	39,433	40,463
帝国ホテル大阪	10,994	11,101
その他	1,834	1,866
不動産賃貸事業	3,768	3,804
合計	56,031	57,236

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 上記の金額は、セグメント間取引の相殺消去後の金額であります。

(2) 主要な事業所の収容能力及び収容実績

帝国ホテル本社

項目	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)				当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)			
	収容能力	収容実績	利用率	一日平均	収容能力	収容実績	利用率	一日平均
客室	339,815室	260,421室	76.6%	713室	339,815室	267,628室	78.8%	733室
食堂	434,715名	1,387,988名	3.2回転	3,803名	434,715名	1,411,221名	3.2回転	3,866名
宴会	1,387,000名	674,437名	0.5回転	1,848名	1,387,000名	700,069名	0.5回転	1,918名
委託食堂	198,925名	212,982名	1.1回転	584名	198,925名	216,586名	1.1回転	593名

(注) 1 客室の収容能力は客室数により算出しております。

2 食堂及び宴会の収容能力は着席数により算出しております(宴会についてはディナー形式の着席数としております)。

当連結会計年度及び前連結会計年度の宿泊客、食事客及び宴会客の利用割合は次のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	比率(%)		当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	比率(%)	
	利用客数(名)	宿泊	計	利用客数(名)	宿泊	計
宿泊客						
外人客	187,108	48.3		194,761	48.5	
邦人客	200,176	51.7		206,607	51.5	
小計	387,284	100.0	15.8	401,368	100.0	16.0
食事客	1,387,988		56.7	1,411,221		56.1
宴会客	674,437		27.5	700,069		27.9
合計	2,449,709		100.0	2,512,658		100.0

帝国ホテル大阪

項目	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)				当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)			
	収容能力	収容実績	利用率	一日平均	収容能力	収容実績	利用率	一日平均
客室	139,065室	114,789室	82.5%	314室	139,065室	120,777室	86.8%	331室
食堂	213,160名	348,024名	1.6回転	953名	213,160名	349,658名	1.6回転	958名
宴会	963,600名	359,823名	0.4回転	986名	963,600名	346,303名	0.4回転	949名
委託食堂	38,325名	51,484名	1.3回転	141名	38,325名	52,101名	1.4回転	143名

(注) 1 客室の収容能力は客室数により算出しております。

2 食堂及び宴会の収容能力は着席数により算出しております(宴会についてはディナー形式の着席数としております)。

当連結会計年度及び前連結会計年度の宿泊客、食事客及び宴会客の利用割合は次のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	比率(%)		当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	比率(%)	
	利用客数(名)	宿泊	計	利用客数(名)	宿泊	計
宿泊客						
外人客	88,579	49.3		89,365	47.3	
邦人客	91,153	50.7		99,505	52.7	
小計	179,732	100.0	20.3	188,870	100.0	21.4
食事客	348,024		39.2	349,658		39.5
宴会客	359,823		40.5	346,303		39.1
合計	887,579		100.0	884,831		100.0

(経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析)

当連結会計年度の財政状態及び経営成績の分析は以下のとおりであります。

(1) 財政状態の分析

(資産)

当連結会計年度末における資産の合計は79,225百万円(前連結会計年度末74,667百万円)となり、4,558百万円増加いたしました。

うち流動資産は40,618百万円(同36,869百万円)と、3,748百万円増加いたしました。これは現金及び預金が増加したことなどによるものであります。

固定資産は38,607百万円(同37,797百万円)と、809百万円増加いたしました。これは投資有価証券が増加したことなどによるものであります。

(負債)

当連結会計年度末における負債の合計は22,648百万円(同20,940百万円)となり、1,708百万円増加いたしました。

うち流動負債は、9,845百万円(同7,895百万円)と、1,949百万円増加いたしました。これは未払費用や未払法人税等の増加などによるものであります。

固定負債は12,802百万円(同13,044百万円)と、241百万円減少いたしました。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産の合計は56,577百万円(同53,727百万円)と、2,850百万円増加いたしました。これは親会社株主に帰属する当期純利益の計上などによるものであります。この結果、自己資本比率は71.4%となりました。

(2) 経営成績の分析

当連結会計年度における売上高は57,236百万円(前年同期比2.2%増)、材料費・販売費及び一般管理費の合計額は52,537百万円(同2.8%増)、営業利益は4,698百万円(同4.8%減)、経常利益は4,961百万円(同4.0%減)となり、親会社株主に帰属する当期純利益は3,399百万円(同7.9%減)となりました。

売上高の主な増加要因は、宴会が好調に推移したことなどによるものであります。販売費及び一般管理費の主な増加要因は、業務全般の効率化による諸経費の削減に努めてまいりましたが、サービス向上とさらなる安全・安心の確保に向けた人件費や業務委託費の増加を補うには至らなかったことなどによるものであります。営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の減少要因は、上記要因によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの分析

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は、前年同期と比べ3,005百万円(60.6%)増加し、7,964百万円となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益4,959百万円、減価償却費2,797百万円などの計上、法人税等の支払額832百万円などによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は、前年同期と比べ1,292百万円(35.6%)増加し、4,928百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出3,025百万円などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は、前年同期と比べ59百万円(6.3%)減少し、890百万円となりました。これは、配当金の支払額890百万円によるものであります。

以上の結果、当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は28,429百万円となり、前連結会計年度末より2,146百万円増加いたしました。

4 【経営上の重要な契約等】

提出会社

帝国ホテル本社の土地のうち12,807㎡は国有地であり、賃借期間は平成9年12月1日から平成39年11月30日までの30年間であります。

財団法人東京国際交流財団（現 ㈱東京国際フォーラム）が運営する東京国際フォーラムのケータリングサービス事業を受託しております。契約期間は平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間であります。

帝国ホテル大阪の建物を所有者(三菱マテリアル㈱・三菱地所㈱)から賃借しております。賃借期間は平成28年2月1日から平成38年1月31日までの10年間であります。

ザ・クレストホテル柏の建物を所有者(三菱UFJ信託銀行㈱)から賃借し、その運営を㈱帝国ホテルエンタープライズに委託しております。いずれも契約期間は平成12年10月1日から平成32年9月30日までの20年間であります。

5 【研究開発活動】

特記事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループは、ブランド価値のさらなる向上と競争力を高めるため、計画的に設備投資を推進し、諸施設を改善充実させております。

当連結会計年度の設備投資によって取得した有形固定資産の合計は2,692百万円であります。

ホテル事業につきましては、帝国ホテル本社の基幹設備更新やスイートルームおよびレストラン改修など2,387百万円の設備投資を行いました。

不動産賃貸事業につきましては、304百万円の設備投資を行いました。

2 【主要な設備の状況】

(1) ホテル事業

平成30年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	摘要
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	工具器具 及び備品	合計		
提出会社 帝国ホテル本社 東京都千代田区	ホテル事業	ホテル設備	9,214	721	2 (11)	1,045	10,983	1,448 (591)	1
提出会社 帝国ホテル大阪 大阪府大阪市北区	"	"	371	215	()	366	952	377 (229)	2
提出会社 上高地帝国ホテル 長野県松本市	"	"	1,258	18	()	26	1,303		3

(2) 不動産賃貸事業

平成30年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	摘要
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	工具器具 及び備品	合計		
提出会社 帝国ホテル本社 東京都千代田区	不動産賃貸 事業	賃貸設備	3,066	54	()	35	3,156	19 ()	1

- (注) 1 1の事業所においては上記の土地のほか12千㎡を賃借しております。
2 2の事業所は建物88千㎡を賃借しております。
3 3の事業所は土地15千㎡を賃借しております。
4 従業員数の()は臨時従業員数を外書きしております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

特記事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

特記事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	192,000,000
計	192,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年6月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	59,400,000	59,400,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は100株であります。
計	59,400,000	59,400,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年10月1日 (注)	29,700,000	59,400,000		1,485		1,378

(注) 平成25年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割いたしました。これに伴い、発行済株式総数は29,700,000株増加し、59,400,000株となっております。

(5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		13	21	262	36	7	4,224	4,563	
所有株式数(単元)		112,645	30,776	399,161	14,899	18	36,427	593,926	7,400
所有株式数の割合(%)		18.97	5.18	67.21	2.51	0.00	6.13	100.0	

(注) 自己株式62,884株は、「個人その他」に628単元、「単元未満株式の状況」に84株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
三井不動産株式会社	東京都中央区日本橋室町2-1-1	19,700	33.20
アサヒビール株式会社	東京都墨田区吾妻橋1-23-1	3,408	5.74
株式会社大和証券グループ本社	東京都千代田区丸の内1-9-1	3,045	5.13
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1-5-5	2,952	4.97
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6	2,918	4.91
富国生命保険相互会社	東京都千代田区内幸町2-2-2	2,654	4.47
サッポロビール株式会社	東京都渋谷区恵比寿4-20-1	2,500	4.21
清水建設株式会社	東京都中央区京橋2-16-1	2,500	4.21
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1-13-1	2,338	3.94
鹿島建設株式会社	東京都港区元赤坂1-3-1	2,300	3.87
計		44,315	74.68

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 62,800		
	(相互保有株式) 普通株式 26,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 59,303,800	593,038	
単元未満株式	普通株式 7,400		
発行済株式総数	59,400,000		
総株主の議決権		593,038	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、(株)ニューサービスシステム所有の相互保有株式64株及び当社所有の自己株式84株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) (株)帝国ホテル	東京都千代田区内幸町 1 - 1 - 1	62,800		62,800	0.11
(相互保有株式) (株)帝国ホテルキッチン	東京都千代田区内幸町 1 - 1 - 1	20,000		20,000	0.03
(相互保有株式) (株)ニューサービスシステム	東京都港区西新橋 2 - 25 - 8	6,000		6,000	0.01
計		88,800		88,800	0.15

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	62,884		62,884	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

3 【配当政策】

配当につきましては、長期に亘る安定的な経営基盤の確保による安定配当の継続を基本方針とし、株主への利益還元に努めてまいりました。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、上記基本方針のもと、当事業年度の業績、今後の業績見通しを総合的に勘案し、中間配当として既に1株当たり7円を実施し、期末配当として1株当たり8円とすることに決定いたしました。

また、内部留保資金につきましては、施設環境の充実、競争力のある新商品の開発など安定した成長を継続するため有効に投資する方針であります。

なお、当社は中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成29年10月27日 取締役会決議	415	7
平成30年6月27日 定時株主総会決議	474	8

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第173期	第174期	第175期	第176期	第177期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	6,060 (注)2 2,645	2,821	2,980	2,452	2,595
最低(円)	2,700 (注)2 2,100	2,100	2,130	2,000	2,044

(注) 1 上記の最高・最低株価は、いずれも東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

2 株式分割(平成25年10月1日、1:2)による権利落後の最高・最低価格を示しております。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年10月	11月	12月	平成30年1月	2月	3月
最高(円)	2,090	2,138	2,259	2,595	2,439	2,238
最低(円)	2,052	2,044	2,075	2,212	2,140	2,120

(注) 上記の最高・最低株価は、いずれも東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

5 【役員 の 状 況】

男性19名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 会長		小 林 哲 也	昭和20年6月21日	昭和44年3月 当社入社 平成9年12月 当社営業企画室長 平成10年6月 当社取締役総合企画室長 平成12年6月 当社常務取締役帝国ホテル東京総支配人 平成13年6月 当社代表取締役副社長帝国ホテル東京総支配人 平成16年4月 当社代表取締役社長帝国ホテル東京総支配人 平成16年6月 当社代表取締役社長 平成25年3月 一般社団法人日本ホテル協会会長 平成25年4月 当社代表取締役会長(現任)	(注)4	34,894
代表取締役 社長	企画部担当	定 保 英 弥	昭和36年7月6日	昭和59年3月 当社入社 平成16年6月 当社営業部長 平成20年6月 当社帝国ホテル東京副総支配人兼ホテル事業統括部長 平成21年4月 当社帝国ホテル東京総支配人 平成21年6月 当社取締役帝国ホテル東京総支配人 平成24年4月 当社専務取締役帝国ホテル東京総支配人 平成25年4月 当社代表取締役社長帝国ホテル東京総支配人 平成29年4月 当社代表取締役社長(現任)	(注)3	23,744
常務取締役	特命担当兼 内部統制部、 事業開発部、 施設部担当	金 澤 睦 生	昭和30年4月30日	昭和54年4月 ㈱第一勧業銀行(現㈱みずほ銀行)入行 平成15年10月 ㈱みずほ銀行京都中央支店長 平成19年4月 同行執行役員コンプライアンス統括部長 平成20年4月 同行理事 平成20年6月 当社取締役内部統制部長 平成21年6月 当社取締役企画部長 平成21年6月 ㈱帝国ホテルエンタープライズ取締役(現任) 平成21年6月 ㈱帝国ホテルサービス取締役(現任) 平成21年6月 ㈱帝国ホテルハイヤー取締役(現任) 平成23年4月 当社取締役 平成25年4月 当社常務取締役(現任)	(注)4	12,657
常務取締役	不動産事業 部、経理部、 総務部担当	黒 田 元 男	昭和29年2月1日	昭和52年3月 当社入社 平成19年6月 当社総務部長 平成25年6月 当社取締役総務部長 平成26年4月 当社常務取締役総務部長 平成26年4月 ㈱帝国ホテルエンタープライズ取締役(現任) 平成27年4月 当社常務取締役(現任) 平成29年6月 ㈱帝国ホテルキッチン代表取締役会長(現任)	(注)3	7,696
取締役		秋 山 智 史	昭和10年8月13日	昭和34年4月 富国生命保険相互会社入社 昭和59年7月 同社取締役財務部長 平成元年3月 同社常務取締役 平成10年7月 同社代表取締役社長 平成13年6月 当社取締役(現任) 平成22年7月 富国生命保険相互会社取締役会長(現任)	(注)3	

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役		荻田 伍	昭和17年1月1日	昭和40年4月 アサヒビール(株)(現アサヒグループホールディングス(株))入社 平成9年3月 同社取締役福岡支社長 平成12年3月 同社常務執行役員九州地区本部長 平成14年3月 同社専務執行役員関信越地区本部長 平成15年3月 アサヒ飲料(株)代表取締役社長 平成18年3月 アサヒビール(株)(現アサヒグループホールディングス(株))代表取締役社長兼C O O 平成22年3月 同社代表取締役会長兼C E O 平成22年6月 当社取締役(現任) 平成23年7月 アサヒグループホールディングス(株)代表取締役会長兼C E O 平成26年3月 同社相談役(現任)	(注)4	
取締役		筒井 義信	昭和29年1月30日	昭和52年4月 日本生命保険相互会社入社 平成16年7月 同社取締役 平成19年1月 同社取締役執行役員 平成19年3月 同社取締役常務執行役員 平成21年3月 同社取締役専務執行役員 平成22年3月 同社代表取締役専務執行役員 平成23年4月 同社代表取締役社長 平成23年6月 当社取締役(現任) 平成27年6月 西日本旅客鉄道(株)社外監査役(現任) 平成27年6月 パナソニック(株)社外取締役(現任) 平成29年6月 三井住友フィナンシャルグループ(株)社外取締役(現任) 平成30年4月 日本生命保険相互会社代表取締役会長(現任)	(注)3	
取締役		斎藤 勝利	昭和18年12月6日	昭和42年4月 第一生命保険相互会社(現第一生命保険(株))入社 平成6年7月 同社取締役調査部長 平成9年4月 同社常務取締役 平成13年4月 同社専務取締役 平成15年4月 同社代表取締役専務 平成16年7月 同社代表取締役社長 平成22年4月 同社代表取締役副会長 平成23年6月 同社代表取締役会長 平成25年6月 当社取締役(現任) 平成28年10月 第一生命ホールディングス(株)代表取締役会長 平成29年4月 第一生命保険(株)特別顧問(現任)	(注)3	
取締役		上條 努	昭和29年1月6日	昭和51年4月 サッポロビール(株)(現サッポロホールディングス(株))入社 平成13年3月 サッポロビール飲料(株)取締役営業企画部長 平成15年9月 同社取締役常務執行役員マーケティング本部長 平成19年3月 サッポロホールディングス(株)取締役経営戦略部長 平成21年3月 同社常務取締役 平成23年3月 同社代表取締役社長兼グループC E O 平成29年1月 同社代表取締役会長(現任) 平成29年6月 田辺三菱製薬(株)社外取締役(現任) 平成29年6月 当社取締役(現任)	(注)3	

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役		日比野 隆司	昭和30年9月27日	昭和54年4月 平成16年6月 平成19年4月 平成21年4月 平成23年4月 平成23年4月 平成29年4月 平成29年4月 平成29年6月	大和証券㈱入社 ㈱大和証券グループ本社取締役兼常務執行役 同社取締役兼専務執行役 同社取締役兼執行役副社長 同社取締役兼代表執行役社長 最高経営責任者(CEO) 大和証券㈱代表取締役社長 ㈱大和証券グループ本社取締役会長兼執行役(現任) 大和証券㈱代表取締役会長(現任) 当社取締役(現任)	(注)3	
取締役		小野澤 康夫	昭和34年3月20日	昭和56年4月 平成21年4月 平成23年4月 平成25年4月 平成28年6月 平成29年4月 平成29年6月	三井不動産㈱入社 同社執行役員ビルディング本部千代田開発部長 同社常務執行役員ビルディング本部副本部長 同社常務執行役員 同社取締役常務執行役員 同社取締役専務執行役員(現任) 当社取締役(現任)	(注)3	
取締役	帝国ホテル 大阪総支配人	幸田 雅弘	昭和33年9月9日	昭和57年3月 平成17年6月 平成23年4月 平成24年4月 平成26年6月	当社入社 当社帝国ホテル大阪営業部長 当社帝国ホテル大阪副総支配人兼宿泊料飲部長 当社帝国ホテル大阪副総支配人兼総支配人室長 当社取締役帝国ホテル大阪総支配人(現任)	(注)4	6,560
取締役	帝国ホテル 東京総支配人	金尾 幸生	昭和36年12月10日	昭和59年3月 平成19年6月 平成23年4月 平成24年4月 平成26年4月 平成27年4月 平成27年6月 平成29年4月	当社入社 当社帝国ホテル大阪宿泊料飲部長 当社営業部長 当社宿泊部長 当社帝国ホテル東京副総支配人兼宿泊部長 当社帝国ホテル東京副総支配人兼ホテル事業統括部長 当社取締役帝国ホテル東京副総支配人兼ホテル事業統括部長 当社取締役帝国ホテル東京総支配人(現任)	(注)3	4,411
取締役	情報システム 部担当兼 企画部長	風間 淳	昭和37年12月24日	昭和61年3月 平成23年4月 平成26年4月 平成27年4月 平成27年4月 平成27年6月 平成29年6月 平成29年6月	当社入社 当社ホテル事業統括部長 ㈱帝国ホテルハイヤー取締役(現任) 当社企画部長 ㈱帝国ホテルエンタープライズ取締役(現任) ㈱帝国ホテルサービス取締役(現任) 当社取締役企画部長(現任) ㈱帝国ホテルキッチン取締役(現任) ㈱ニューサービスシステム監査役(現任)	(注)3	2,554
取締役	人事部担当兼 総務部長	徳丸 淳	昭和38年6月6日	昭和61年3月 平成21年4月 平成27年4月 平成28年6月 平成29年6月	当社入社 当社東京国際フォーラム部長 当社総務部長 当社取締役総務部長(現任) ㈱帝国ホテルサービス代表取締役社長(現任)	(注)4	1,880

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
常勤監査役		宮 新 朋 明	昭和32年 4月24日	昭和56年 3月 当社入社 平成19年 4月 当社内部統制部長 平成20年 6月 当社経理部長 平成24年 6月 ㈱帝国ホテルエンタープライズ監査役 (現任) 平成26年 6月 当社取締役経理部長 平成28年 4月 当社取締役 平成28年 6月 当社常勤監査役(現任) 平成28年 6月 ㈱帝国ホテルサービス監査役(現任) 平成28年 6月 ㈱帝国ホテルハイヤー監査役(現任) 平成29年 6月 ㈱帝国ホテルキッチン監査役(現任)	(注) 6	2,980
監査役		大 戸 武 元	昭和20年 1月 3日	昭和43年 4月 日本冷蔵㈱(現㈱ニチレイ)入社 平成 9年 6月 同社取締役人事部長兼秘書室長 平成13年 6月 同社代表取締役会長 平成19年 6月 同社相談役 平成22年 6月 日立化成工業㈱(現日立化成㈱)社外取締 役(現任) 平成23年 6月 当社監査役(現任) 平成25年 6月 ㈱ニチレイ顧問 平成28年 6月 ㈱エー・ディー・ワークス社外取締役 (現任)	(注) 5	2,000
監査役		岩 倉 正 和	昭和37年12月 2日	昭和62年 4月 第一東京弁護士会登録 西村総合法律事務所(現西村あさひ法律 事務所)入所 平成18年 4月 一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授 平成19年 4月 ハーバード大学ロースクール客員教授 平成23年 6月 当社監査役(現任) 平成25年 4月 ハーバード大学ロースクール客員教授 (再任) 平成29年 1月 T M I 総合法律事務所パートナー弁護士 (現任) 平成30年 4月 一橋大学大学院法学研究科(ビジネス ロ-専攻)教授(現任)	(注) 5	
監査役		飯 野 健 司	昭和30年 1月 3日	昭和53年 4月 三井不動産㈱入社 平成16年 4月 同社ビルディング本部ビルディング営業 一部長 平成19年 4月 同社執行役員人事部長 平成21年 4月 同社常務執行役員人事部長 平成23年 4月 同社常務執行役員 平成23年 6月 同社常務取締役常務執行役員 平成25年 4月 同社取締役常務執行役員 平成28年 4月 同社取締役 平成28年 6月 同社常任監査役(現任) 平成28年 6月 当社監査役(現任)	(注) 6	
計						99,376

- (注) 1 取締役 秋山智史、荻田 伍、筒井義信、斎藤勝利、上條 努、日比野隆司、小野澤康夫の各氏は、社外取締
役であります。
- 2 監査役 大戸武元、岩倉正和、飯野健司の各氏は、社外監査役であります。
- 3 取締役の任期は、平成29年 3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年 3月期に係る定時株主総会終結
の時までであります。
- 4 取締役の任期は、平成30年 3月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年 3月期に係る定時株主総会終結
の時までであります。
- 5 監査役の任期は、平成27年 3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年 3月期に係る定時株主総会終結
の時までであります。
- 6 監査役の任期は、平成28年 3月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年 3月期に係る定時株主総会終結
の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

当社は、企業理念に従い、国際的ベストホテルを目指す企業として最も優れたサービスと商品を提供することにより、ブランド価値の維持向上を図るとともに、コーポレート・ガバナンス体制の充実により、経営の透明性、健全性、効率性を向上させ、株主、顧客等各ステークホルダーの信頼確保に努め、持続的な成長・発展とともに、社会的な責任を果たしていくことが重要と考えております。

以上を踏まえ当社は、社外取締役の選任による取締役会の監督機能の強化、監査役及び内部監査の連携による経営の監視体制の充実、執行役員制度の導入による経営の健全性と効率性の向上を図り、実効性のあるコーポレート・ガバナンス体制を構築し、持続的に企業価値を高めることを基本方針としております。

イ 企業統治の体制の概要とその体制を採用する理由

当社は、社外役員を選任することにより、取締役の業務執行に対する監督機能の向上を図っております。さらに、執行役員制度の導入により、経営の監督機能と業務執行を分離することによって権限と責任を明確化し、経営環境の変化に迅速に対応し、経営の健全性と効率性を高めることに努めております。

また、監査役は、会計監査人及び内部監査部門と連携し、実効的な監査体制を構築しております。

取締役会においては、取締役15名のうち7名が社外取締役であり、監査役会においては、監査役4名のうち3名が社外監査役であります。なお、これらの社外役員は、法が定める要件に合致することを確認の上、人格、見識、社会的地位、経歴等をもとに選任しております。

社外役員の経営全般に関する豊富な経験と高度の専門性により、常勤の取締役や執行役員とは違った視点に基づいた、客観的、独立的立場からの監督・監視の機能が実現しております。その結果、取締役会での判断の透明性、公平性が確保されていると認識しております。

以上の体制を採用することで、当社は、経営の透明性、健全性、効率性を向上させ、株主、顧客等各ステークホルダーの信頼確保に努め、また持続的に企業価値を高めることに努めております。

当社コーポレート・ガバナンス体制の概要は以下のとおりであります。

(a)取締役会

当社は現在、取締役15名（うち社外取締役7名）が選任されており、「取締役会」を原則月1回開催し、取締役会規程に基づき、法令ならびに定款で定められた事項ならびに経営方針その他の重要事項を決定するとともに、取締役及び執行役員による職務の執行を監督しております。

(b)監査役会

当社は現在、監査役4名（うち社外監査役3名）が選任されており、「監査役会」を原則月1回開催し、監査役会規程に基づき策定された監査方針、監査計画及び監査方法に従い、業務及び財産の状況の調査を行うとともに、取締役会その他の重要な会議への出席、重要書類の閲覧等から、取締役の職務執行を監査しております。

なお、社内監査役は、当社経理部門に長く携わり、財務・会計に関する知見を有する者として選任されております。

(c)経営会議

「経営会議」は、「取締役会」を補完する機関として毎月開催し、取締役会に付議する事項及び会社の業務執行全般に亘る重要事項等を審議し決定することで、情報共有化と意思決定の迅速化と効率化を確保しております。

(d)常務会

「常務会」は、役付役員で構成され随時開催し、経営会議等の機関に付議する事項及び会社の業務執行全般に亘る重要事項について、十分な情報収集とそれに基づく検討協議を経ることにより、会社の意思決定の適正性及び合理性を確保しております。

(e)内部監査の状況

「内部統制部」を設置し、内部監査計画に基づき財務報告の信頼性の確保、子会社を含めた業務の適法性、適正性、効率性等について定期的に監査を実施し、その結果は、取締役会や経営会議において報告されております。

(f)コーポレート・ガバナンスの強化を目的として、その他各種委員会を以下のとおり設置しております。

- ・「リスク管理委員会」

当社の事業運営に伴う各種リスクの適正な分析評価と予防措置、発生時の被害最小化、事業継続性確保等の対応策を検討するとともに、従業員の法令遵守や倫理意識向上にむけ、各種規程の整備拡充や教育訓練の実施を推進しております。

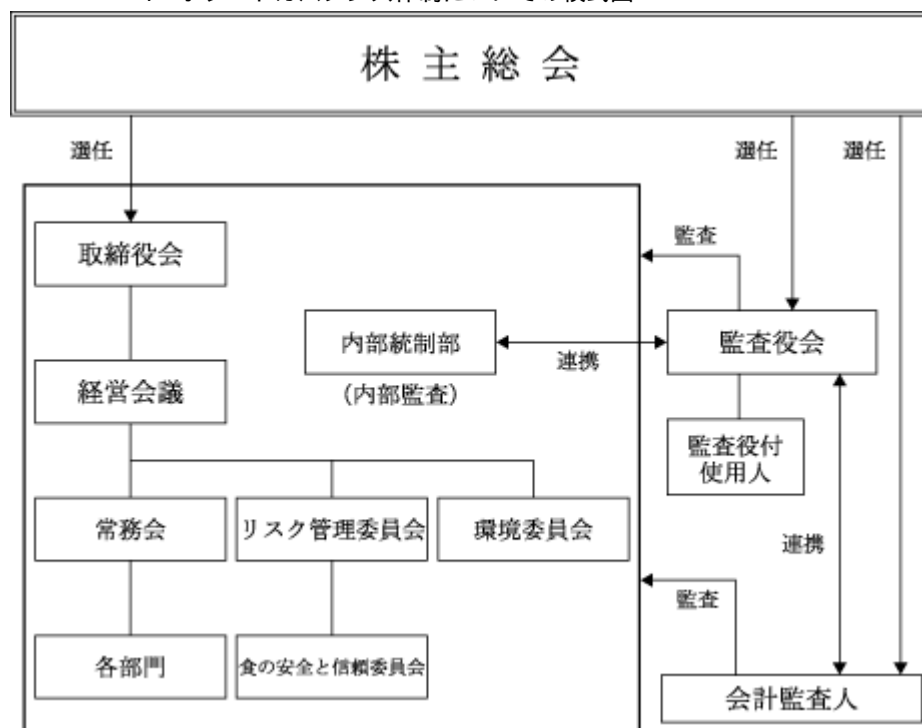
・「食の安全と信頼委員会」

日常的な食の安全管理を再徹底するとともに、食の安全と信頼の確保という社会やお客様の期待に応え続けることのできる管理体制の整備に取り組んでおります。

・「環境委員会」

法令に定められた環境基準を遵守するとともに、地球温暖化ガス排出量抑制にむけた各種施策の策定と実施、さらに実施状況の検証と是正を一定のサイクルで実施しております。

コーポレートガバナンス体制についての模式図



□ 内部統制システムの整備の状況

(a) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

「コンプライアンス基本規程」に従い、コンプライアンス体制の整備、定期的な教育、研修による周知徹底に努め、法令、定款、社内規則、社会通念等を遵守した職務遂行の体制を確立しております。

社外取締役、社外監査役を選任することにより、取締役の監督機能の有効性を高めております。

法令違反等に関する相談、通報に適正に対処する体制として「ヘルプライン」制度を整備しております。

監査役は、重要な会議の出席、重要書類の閲覧等から、取締役の職務遂行が法令及び定款に適合することを検証し、監査機能の実効性向上に努めております。

当社及びグループ会社における財務報告の適正性を確保するため、金融商品取引法その他関連法令に従い、内部統制を構築・運用し、定期的にその有効性を評価しております。

(b) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

株主総会、取締役会、経営会議等の議事録及び関係資料等ならびに稟議書、決裁書等の取締役の職務執行にかかる重要な書類について、法令ならびに社内規程に基づき、文書又は電磁的媒体に記録、保存及び管理し、常時閲覧可能とする体制を整備しております。

個人情報保護や情報セキュリティに関する規程を整備し、重要な情報の安全性を確保しております。

(c) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

リスク管理に関する諸規程を整備し、各種リスクに対する予防及び発生時の対処等について研修、訓練を実施し、リスク管理の実効性を向上させております。

定期的に「リスク管理委員会」を開催し、事業運営に伴う各種リスクの適正な分析・評価、リスクの予防措置、発生時の対応等を検討し、総合的なリスク管理体制を整備しております。

事業の特性として食に関わるリスク対策を最重要課題と捉え、「食の安全と信頼委員会」において当社及びグループ会社の食品安全管理基準を制定し、食の安全を確保する体制を構築・運用しております。

(d)取締役の職務の執行が効率的に行われていることを確保するための体制

取締役会規程、職務分掌・権限規程等に基づき、意思決定ルール、職務分担と権限を明確化し、取締役の職務遂行の効率性を確保しております。

「取締役会」を原則月1回開催するとともに、取締役会から委嘱された業務執行に関し「経営会議」を開催することにより意思決定の迅速化と職務遂行の効率化を図っております。

経営機能と業務執行機能の分離、強化を目的として執行役員制度を採用し、業務執行の機動性を高めております。

(e)企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は、社内規程において、グループ会社に定期的な報告及び重要事項の決定に際しての、事前協議・報告を求めるほか、当社の取締役、執行役員及び使用人をグループ会社の役員として派遣し、事業運営の適正性を確保しております。

当社はリスク管理規程において、リスクの分類に応じて担当部署を定め、グループ全体のリスクを網羅的、統括的に管理しております。

当社はグループ会社における職務分掌、権限等組織に関する基準を策定し、グループ会社はこれに準拠した体制を構築・運用しております。

当社及びグループ会社は、「帝国ホテルグループコンプライアンス基本規程」に従い、コンプライアンス体制を整備しております。

(f)監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及び当該使用人の取締役からの独立性ならびに監査役の指示の実行性の確保に関する事項

監査役の職務補助のため監査役の指揮命令下に専任スタッフを配置し、その任命・解任等の人事については監査役の同意を得ております。

(g)当社ならびに子会社の取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制、その他の監査役への報告に関する体制

当社ならびにグループ会社の取締役、執行役員及び使用人は、法令及び定款に違反する行為、あるいは著しい損害の生じる恐れのある事実の発生、又はその可能性が生じた時には、監査役に報告しております。

当社ならびにグループ会社は、監査役に報告を行った者に対し、それを理由として不利益な扱いを行っておりません。

(h)その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役が代表取締役及び会計監査人と定期的に会合を持ち、経営上の課題、会社を取り巻くリスク及び監査上の重要課題等について意見交換を行うとともに、内部監査部門と緊密な連携を保ち、効果的な監査ができる体制を確保しております。

当社は、監査役が職務執行について生じる費用の請求をした時は、速やかに当該請求に基づき支払いを行っております。

(i)反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

当社は社会的責任において、反社会的勢力に対し組織的に毅然とした態度で臨んでおります。平素より対応統括部署である総務部が中心となり、関係行政機関や地域企業等と協力し、情報の収集、共有化に努め、コンプライアンスの観点から、反社会的勢力との関係を一切遮断すべく、役員及び全従業員に対し、周知徹底を図っております。

事案発生時には、所轄警察機関ならびに顧問弁護士と連携し、迅速かつ適切に対処する協力体制を構築しております。

八 責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項の規定に基づき、取締役（業務執行取締役等であるものを除く）及び監査役との間に、同法第423条第1項に規定する損害賠償責任を法令が規定する額に限定する契約を締結しております。

内部監査及び監査役監査

内部監査部門である内部統制部は7名で構成され、内部監査計画に基づき行う日常的な監査、報告の受領、聴取の他、財務報告の信頼性の確保、子会社を含めた業務の適法性、効率性等についての監査の実施結果について、監査役に随時報告し、監査の実効性を確保しております。

監査役は、会計監査人からの報告の受領、情報の聴取等を行うとともに、意見交換会（当期定例4回・その他随時）を実施し、監査の実効性の確保に努めております。会計監査人につきましては、当社は有限責任 あずさ監査法人と監査契約を締結しております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は7名であり、社外監査役は3名であります。

これらの社外役員は、取締役会での監督機能の強化と健全性を確保するため、法が定める要件に合致することを確認の上、人格、見識、社会的地位、経歴等をもとに選任しております。

社外取締役秋山智史氏は、経営全般に関する高度の専門性と豊富な業務経験により、常勤の取締役や執行役員とは違った視点に基づいた客観的、独立的立場からの指摘や有益な意見を頂いており、当社経営に対する監督を含めた社外役員の独立性の観点から適切な方と考え、また一般株主と利益相反が生じるおそれがないと判断し、独立役員として指定しております。同氏は、富国生命保険相互会社の取締役会長を現在務めております。当社は同社と取引が存在しますが、その取引は当社の意思決定に影響を及ぼす規模のものではなく、また個人的な利害関係を有するものではありません。

社外取締役荻田伍氏は、経営全般に関する高度の専門性と豊富な業務経験により、常勤の取締役や執行役員とは違った視点に基づいた客観的、独立的立場からの指摘や有益な意見を頂いており、当社経営に対する監督を含めた社外役員の独立性の観点から適切な方と考え、また一般株主と利益相反が生じるおそれがないと判断し、独立役員として指定しております。同氏は、アサヒグループホールディングス株式会社の代表取締役会長を平成26年3月まで務めておりましたが、現在は同社の業務執行者ではありません。当社は同社と取引が存在しますが、その取引は当社の意思決定に影響を及ぼす規模のものではなく、また個人的な利害関係を有するものではありません。

社外取締役筒井義信氏は、経営全般に関する高度の専門性と豊富な業務経験を有し、当社経営に対する監督において適切な方として選任しております。同氏は、日本生命保険相互会社の代表取締役会長を現在務めております。当社は同社と取引が存在しますが、その取引は当社の意思決定に影響を及ぼす規模のものではなく、また個人的な利害関係を有するものではありません。

社外取締役斎藤勝利氏は、経営全般に関する高度の専門性と豊富な業務経験を有し、当社経営に対する監督において適切な方として選任しております。同氏は、第一生命保険株式会社の代表取締役会長を平成29年3月まで務めておりましたが、現在は同社の業務執行者ではありません。当社は同社と取引が存在しますが、その取引は当社の意思決定に影響を及ぼす規模のものではなく、また個人的な利害関係を有するものではありません。

社外取締役上條努氏は、経営全般に関する高度の専門性と豊富な業務経験を有し、当社経営に対する監督において適切な方として選任しております。同氏は、サッポロホールディングス株式会社の代表取締役会長を現在務めております。当社は同社と取引が存在しますが、その取引は当社の意思決定に影響を及ぼす規模のものではなく、また個人的な利害関係を有するものではありません。

社外取締役日比野隆司氏は、経営全般に関する高度の専門性と豊富な業務経験を有し、当社経営に対する監督において適切な方として選任しております。同氏は、株式会社大和証券グループ本社の取締役会長兼執行役を現在務めております。当社は同社と取引が存在しますが、その取引は当社の意思決定に影響を及ぼす規模のものではなく、また個人的な利害関係を有するものではありません。

社外取締役小野澤康夫氏は、経営全般に関する高度の専門性と豊富な業務経験を有し、当社経営に対する監督において適切な方として選任しております。同氏は、当社の主要株主である三井不動産株式会社の取締役専務執行役員を現在務めております。当社は同社と取引が存在しますが、その取引は当社の意思決定に影響を及ぼす規模のものではなく、また個人的な利害関係を有するものではありません。

社外監査役大戸武元氏は、経営についての高度の専門性と豊富な業務経験と知識を有し、当社経営への適切な監視ができる方として選任しております。同氏は、株式会社ニチレイの代表取締役会長を平成19年6月まで務め、平成27年3月まで同社の相談役を務めておりましたが、現在は退職しております。当社は同社と取引が存在しますが、その取引は当社の意思決定に影響を及ぼす規模のものではなく、また個人的な利害関係を有するものではありません。

社外監査役岩倉正和氏は、弁護士としての高度の専門的知識と企業法務の豊富な業務経験を有し、当社経営陣から独立した客観的、中立的立場からの指摘や有益な意見を頂いており、当社経営への監視を含めた社外役員の独立性の観点から適切な方であると考え、また一般株主と利益相反が生じるおそれがないと判断し、独立役員として指定しております。同氏は、TMI総合法律事務所のパートナー弁護士を現在務めております。当社は同法律事務所と取引が存在しますが（但し、顧問契約はありません）が、その取引は、当社の意思決定に影響を及ぼす規模のものではなく、また個人的な利害関係を有するものではありません。

社外監査役飯野健司氏は、経営についての高度の専門性と豊富な業務経験と知識を有し、当社経営への適切な監視ができる方として選任しております。同氏は、当社の主要株主である三井不動産株式会社の常任監査役を務めております。当社は同社と取引が存在しますが、その取引は当社の意思決定に影響を及ぼす規模のものではなく、また個人的な利害関係を有するものではありません。

なお、社外取締役及び社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準又は方針は定めていませんが、東京証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にしております。

役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)	対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	
取締役 (社外取締役を除く。)	311	311	8
監査役 (社外監査役を除く。)	48	48	2
社外役員	45	45	12

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

八 役員の報酬等の額の決定に関する方針

取締役については、役位に応じた基本部分と業績との連動性を高めた部分から成る報酬体系とし、社外取締役及び監査役については定額の報酬体系とするともに、株主総会で決議された報酬総額の限度内で役員報酬を支給することとしております。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 13銘柄
貸借対照表計上額の合計額 1,965百万円

□ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
アサヒグループホールディングス(株)	187,000	786	取引関係等の円滑化のため
(株)大和証券グループ本社	450,000	305	取引関係等の円滑化のため
(株)ニチレイ	100,000	275	取引関係等の円滑化のため
サッポロホールディングス(株)	34,000	102	取引関係等の円滑化のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	491,481	100	取引関係等の円滑化のため
麒麟ホールディングス(株) (注)	7,000	14	取引関係等の円滑化のため
タカラスタンダード(株) (注)	6,626	11	取引関係等の円滑化のため
第一生命ホールディングス(株) (注)	1,900	3	取引関係等の円滑化のため

(注) 貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ではありますが記載しております。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
アサヒグループホールディングス(株)	187,000	1,059	取引関係等の円滑化のため
(株)大和証券グループ本社	450,000	305	取引関係等の円滑化のため
(株)ニチレイ	100,000	294	取引関係等の円滑化のため
サッポロホールディングス(株)	34,000	105	取引関係等の円滑化のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	491,481	94	取引関係等の円滑化のため
麒麟ホールディングス(株) (注)	7,000	19	取引関係等の円滑化のため
タカラスタンダード(株) (注)	6,716	12	取引関係等の円滑化のため
第一生命ホールディングス(株) (注)	1,900	3	取引関係等の円滑化のため

(注) 貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ではありますが記載しております。

八 保有目的が純投資目的である投資株式
該当事項はありません。

会計監査の状況

会計監査人につきましては、有限責任 あずさ監査法人と監査契約を締結しております。

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人名	提出会社に係る継続監査年数
辰 巳 幸 久	有限責任 あずさ監査法人	1年
轡 田 留 美 子	有限責任 あずさ監査法人	2年

また、当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士3名、その他9名であります。

(注) その他は、公認会計士試験合格者、システム監査担当者等であります。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、出席した当該株主の議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。なお、取締役の選任決議は累積投票によらないものとしております。

自己の株式の取得

当社は、財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能にするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

中間配当

当社は、剰余金の配当等に関する会社法第454条第5項の規定により、取締役会決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	40		40	
連結子会社				
計	40		40	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

会計監査人より提示される監査計画の内容を元に、監査日数、当社の規模、業務の特性等を勘案・協議し、監査役会の同意を得て決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下、「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任あずさ監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、専門的情報を有する団体等が主催する研修・セミナーへの参加や会計専門誌などの定期購読をしております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,883	30,530
売掛金	3,428	3,878
有価証券	² 3,768	4,300
貯蔵品	533	602
繰延税金資産	550	711
その他	710	600
貸倒引当金	4	5
流動資産合計	36,869	40,618
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	104,554	106,360
減価償却累計額	90,104	91,804
建物及び構築物（純額）	14,449	14,556
機械装置及び運搬具	4,432	4,087
減価償却累計額	3,369	3,034
機械装置及び運搬具（純額）	1,063	1,053
工具、器具及び備品	10,056	9,172
減価償却累計額	8,629	7,686
工具、器具及び備品（純額）	1,427	1,486
土地	3,113	3,113
有形固定資産合計	20,054	20,210
無形固定資産		
借地権	853	853
その他	851	650
無形固定資産合計	1,705	1,504
投資その他の資産		
投資有価証券	^{1, 2} 7,549	^{1, 2} 8,667
敷金及び保証金	3,331	3,330
繰延税金資産	3,015	2,761
その他	2,141	2,133
投資その他の資産合計	16,037	16,892
固定資産合計	37,797	38,607
資産合計	74,667	79,225

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,165	1,310
未払法人税等	318	1,092
未払費用	1,808	2,628
前受金	858	949
賞与引当金	1,198	1,196
建物解体費用引当金	-	287
その他	2,546	2,379
流動負債合計	7,895	9,845
固定負債		
退職給付に係る負債	7,174	7,134
資産除去債務	984	995
長期預り金	4,464	4,456
建物解体費用引当金	299	-
その他	121	216
固定負債合計	13,044	12,802
負債合計	20,940	22,648
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,485	1,485
資本剰余金	1,378	1,378
利益剰余金	50,900	53,410
自己株式	89	89
株主資本合計	53,674	56,183
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	913	1,113
退職給付に係る調整累計額	860	719
その他の包括利益累計額合計	52	393
純資産合計	53,727	56,577
負債純資産合計	74,667	79,225

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
売上高	56,031	57,236
材料費	12,065	12,585
販売費及び一般管理費	39,031	39,952
営業利益	4,934	4,698
営業外収益		
受取利息	34	32
受取配当金	29	35
持分法による投資利益	33	65
その他	133	129
営業外収益合計	230	262
経常利益	5,165	4,961
特別損失		
固定資産除却損	4	1
特別損失合計	4	1
税金等調整前当期純利益	5,160	4,959
法人税、住民税及び事業税	1,165	1,615
法人税等調整額	305	55
法人税等合計	1,471	1,560
当期純利益	3,689	3,399
親会社株主に帰属する当期純利益	3,689	3,399

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
当期純利益	3,689	3,399
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	152	194
退職給付に係る調整額	44	140
持分法適用会社に対する持分相当額	0	5
その他の包括利益合計	197	341
包括利益	3,887	3,740
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	3,887	3,740

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	退職給付に 係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計	
当期首残高	1,485	1,378	48,160	89	50,934	760	905	145	50,789
当期変動額									
剰余金の配当			949		949				949
親会社株主に帰属する 当期純利益			3,689		3,689				3,689
自己株式の取得				0	0				0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						153	44	197	197
当期変動額合計	-	-	2,739	0	2,739	153	44	197	2,937
当期末残高	1,485	1,378	50,900	89	53,674	913	860	52	53,727

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	退職給付に 係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計	
当期首残高	1,485	1,378	50,900	89	53,674	913	860	52	53,727
当期変動額									
剰余金の配当			890		890				890
親会社株主に帰属する 当期純利益			3,399		3,399				3,399
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						200	140	341	341
当期変動額合計	-	-	2,509	-	2,509	200	140	341	2,850
当期末残高	1,485	1,378	53,410	89	56,183	1,113	719	393	56,577

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	5,160	4,959
減価償却費	2,742	2,797
有形固定資産除却損	4	1
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	0
賞与引当金の増減額(は減少)	3	2
役員賞与引当金の増減額(は減少)	58	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	4	40
受取利息及び受取配当金	63	68
持分法による投資損益(は益)	33	65
売上債権の増減額(は増加)	35	449
たな卸資産の増減額(は増加)	54	69
仕入債務の増減額(は減少)	105	144
長期預り金の増減額(は減少)	290	7
差入保証金の増減額(は増加)	0	1
建物解体費用引当金の増減額(は減少)	8	11
その他	788	1,492
小計	7,115	8,683
利息及び配当金の受取額	106	113
法人税等の支払額	2,263	832
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,959	7,964
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	-	1,000
有形固定資産の取得による支出	2,799	3,025
有形固定資産の売却による収入	2	-
投資有価証券の取得による支出	986	1,211
投資有価証券の償還による収入	330	368
貸付けによる支出	1	4
貸付金の回収による収入	3	4
その他	184	57
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,635	4,928
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	0	-
配当金の支払額	949	890
財務活動によるキャッシュ・フロー	949	890
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	374	2,146
現金及び現金同等物の期首残高	25,909	26,283
現金及び現金同等物の期末残高	26,283	28,429

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数及び連結子会社名

(1) 連結子会社数3社

(2) 連結子会社名

㈱帝国ホテルエンタープライズ

㈱帝国ホテルサービス

㈱帝国ホテルハイヤー

(3) 非連結子会社名

IMPERIAL HOTEL AMERICA, LTD.

IMPERIAL HOTEL ASIA PTE. LTD.

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、小規模会社であり、総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社数2社

(2) 持分法を適用した会社名

関連会社

㈱帝国ホテルキッチン

㈱ニューサービスシステム

(3) 持分法を適用しない非連結子会社名

IMPERIAL HOTEL AMERICA, LTD.

IMPERIAL HOTEL ASIA PTE. LTD.

持分法を適用しない理由

持分法非適用会社は、当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産

貯蔵品

移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

定額法（一部定率法）

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3～50年

無形固定資産

ソフトウェア

社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

(3)重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

建物解体費用引当金

建物解体に関連して発生する支出に備えるため、解体費用等の発生見込額を計上しております。

(4)退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（13年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法をういた簡便法を適用しております。

(5)連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(6)その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 平成30年3月30日）
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日）

(1)概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2)適用予定日

平成34年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
投資有価証券(株式)	742百万円	786百万円

2 担保資産

商品券発行等に係る供託金として、有価証券及び投資有価証券を東京法務局に差し入れております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
有価証券(国債)	68百万円	
投資有価証券(国債)	90 "	160百万円

(連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主な項目

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
人件費	16,061百万円	16,119百万円
業務委託費	3,498 "	3,741 "
賃借料	2,937 "	3,027 "
減価償却費	2,742 "	2,797 "
賞与引当金繰入額	1,198 "	1,196 "
退職給付費用	723 "	838 "

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	219	280
組替調整額		
税効果調整前	219	280
税効果額	67	85
その他有価証券評価差額金	152	194
退職給付に係る調整額		
当期発生額	27	0
組替調整額	92	204
税効果調整前	65	203
税効果額	20	63
退職給付に係る調整額	44	140
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	0	5
その他の包括利益合計	197	341

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	59,400,000			59,400,000

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	75,865	51		75,916

(注) 普通株式の自己株式数の増加51株は、単元未満株式の買取によるものであります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	534	(注)9	平成28年3月31日	平成28年6月29日
平成28年10月28日 取締役会	普通株式	415	7	平成28年9月30日	平成28年12月5日

(注) 1株当たり配当額9円には、記念配当1円を含んでおります。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	474	8	平成29年3月31日	平成29年6月29日

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	59,400,000			59,400,000

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	75,916			75,916

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	474	8	平成29年3月31日	平成29年6月29日
平成29年10月27日 取締役会	普通株式	415	7	平成29年9月30日	平成29年12月4日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	474	8	平成30年3月31日	平成30年6月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
現金及び預金	27,883百万円	30,530百万円
有価証券	3,768 "	4,300 "
計	31,651百万円	34,830百万円
償還期間が3ヶ月を超える定期預金	5,000 "	6,000 "
償還期間が3ヶ月を超える債券等	368 "	400 "
現金及び現金同等物の期末残高	26,283百万円	28,429百万円

(リース取引関係)

オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (平成30年 3月31日)
1年内	1,274百万円	1,274百万円
1年超	8,786 "	7,512 "
合計	10,061百万円	8,786百万円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については、安全性の高い金融資産で運用し、また、資金調達については、主にホテル事業及び不動産賃貸事業の設備投資計画に必要性が生じた場合、資金(主に金融機関からの借入)を調達する方針であります。また、デリバティブ取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社の与信管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行っております。

有価証券及び投資有価証券は、主に信用リスク及び市場価格の変動リスクに晒されております。一時的な余資は、当社の運用方針に従い、主に格付けの高い預金又は債券を対象としているため、信用リスクは僅少であります。なお、定期的に時価や発行体の財務状況を把握し、保有状況を継続的に見直しております。

営業債務である買掛金は、1年以内の支払期日であります。

当期の連結決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の貸借対照表価額により表されております。

また、当社の経理部が、各部署あるいは連結子会社からの報告に基づき、適時に資金繰り計画を作成するなどの方法により、流動性リスクを管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注)2を参照ください。)

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	27,883	27,883	
(2) 売掛金	3,428		
貸倒引当金	4		
	3,423	3,423	
(3) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	10,567	10,567	
資産計	41,874	41,874	
(1) 買掛金	1,165	1,165	
負債計	1,165	1,165	

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	30,530	30,530	
(2) 売掛金	3,878		
貸倒引当金	5		
	3,873	3,873	
(3) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	12,132	12,132	
資産計	46,536	46,536	
(1) 買掛金	1,310	1,310	
負債計	1,310	1,310	

(注)1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 売掛金

これらはすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

また、有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負 債

(1) 買掛金

すべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成29年 3月31日	平成30年 3月31日
非上場の非連結子会社及び関連会社株式	742	786
上記以外の非上場株式	7	49

非上場株式については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(単位：百万円)

区分	平成29年 3月31日	平成30年 3月31日
敷金及び保証金	3,331	3,330
長期預り金	4,464	4,456

敷金及び保証金については、主にホテル事業に係る建物についての差入敷金・保証金であります。また、長期預り金については、不動産賃貸事業等に係るテナントからの受入敷金・保証金であります。これらについては、市場価格がなく、かつ退去の予定を合理的に見積ることができないことにより、将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、本表には含めておりません。

(注) 3 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年 3月31日)

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	27,883			
売掛金	3,428			
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
・国債	268	1,804	1,052	34
・社債	2,100	1,500	650	
・その他	1,400			
合計	35,080	3,304	1,702	34

当連結会計年度(平成30年 3月31日)

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	30,530			
売掛金	3,878			
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
・国債	200	1,809	1,116	34
・社債	2,200	1,900	950	
・その他	1,900			
合計	38,708	3,709	2,066	34

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位:百万円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式	1,621	393	1,228
債券	4,569	4,478	91
小計	6,191	4,872	1,319
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式			
債券	2,975	2,985	10
その他	1,400	1,400	
小計	4,375	4,385	10
合計	10,567	9,258	1,309

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位:百万円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式	1,915	393	1,522
債券	5,119	5,044	74
小計	7,035	5,438	1,597
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式			
債券	3,197	3,204	7
その他	1,900	1,900	
小計	5,097	5,104	7
合計	12,132	10,542	1,589

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を設けており、また、総合型確定拠出年金制度（日本ホテル業企業型年金）に加入しております。

なお、連結子会社の2社については、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付債務の期首残高	7,179	7,174
勤務費用	318	332
利息費用	46	46
数理計算上の差異の発生額	27	0
退職給付の支払額	396	419
退職給付債務の期末残高	7,174	7,134

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	7,174	7,134
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	7,174	7,134
退職給付に係る負債	7,174	7,134
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	7,174	7,134

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
勤務費用	318	332
利息費用	46	46
数理計算上の差異の費用処理額	241	204
過去勤務費用の費用処理額	149	-
確定給付制度に係る退職給付費用	457	583

(4) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
過去勤務費用	149	-
数理計算上の差異	214	203
合計	65	203

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
未認識数理計算上の差異	1,241	1,037
合計	1,241	1,037

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	(自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
割引率	0.7%	0.7%

3. 確定拠出制度

当社及び一部の連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度266百万円、当連結会計年度257百万円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (平成30年 3月31日)
繰延税金資産（流動）		
賞与引当金	372百万円	368百万円
未払事業税	33 "	67 "
建物解体費用引当金		88 "
その他	144 "	187 "
繰延税金負債（流動）との相殺	0 "	0 "
計	550百万円	711百万円
繰延税金資産（固定）		
退職給付に係る負債	2,208百万円	2,200百万円
減損損失	895 "	841 "
資産除去債務	301 "	304 "
その他	291 "	172 "
評価性引当額	233 "	231 "
繰延税金負債（固定）との相殺	447 "	526 "
計	3,015百万円	2,761百万円
繰延税金資産合計	3,565百万円	3,472百万円
繰延税金負債（流動）		
その他有価証券評価差額金	0百万円	0百万円
繰延税金資産（流動）との相殺	0 "	0 "
計		
繰延税金負債（固定）		
有形固定資産	43百万円	37百万円
その他有価証券評価差額金	403 "	488 "
繰延税金資産（固定）との相殺	447 "	526 "
計		
繰延税金負債合計		
繰延税金資産純額	3,565百万円	3,472百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となつた主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.9%	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.3%	
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.2%	
住民税均等割等	0.2%	
評価性引当額	0.2%	
受取配当金連結消去	0.2%	
持分法による投資損益	0.2%	
所得拡大促進税制による税額控除	2.2%	
その他	0.3%	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.5%	

(注) 当連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

自社所有の建物解体時に法令で要求されている耐火被覆・吸音材等の除去費用であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

建物毎の使用見込期間を11年～22年と見積もり、割引率1.4%～2.2%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
期首残高	974百万円	984百万円
時の経過による調整額	10 "	10 "
期末残高	984百万円	995百万円

(賃貸等不動産関係)

当社グループは、主として東京都内において、賃貸用オフィスビル(ホテルとの複合ビル、土地を含む。)と賃貸マンション等を有しております。

平成29年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は2,384百万円(賃貸収益は売上高に、賃貸費用は販売費及び一般管理費に計上)であります。

平成30年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は2,312百万円(賃貸収益は売上高に、賃貸費用は販売費及び一般管理費に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

		前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	5,771	5,773
	期中増減額	1	46
	期末残高	5,773	5,726
期末時価		69,951	75,151

- (注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
- 2 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加は、タワーオフィスエレベーター更新218百万円、主な減少は、減価償却費325百万円であります。
当連結会計年度の主な増加は、タワーオフィスエレベーター更新276百万円、主な減少は、減価償却費341百万円であります。
- 3 時価の算定方法
期末の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産調査報告書に基づく金額によっております。その他の物件については、一定の評価額及び適切に市場価格を反映していると考えられる指標を用いて合理的に調整した金額によっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、「ホテル事業」及び「不動産賃貸事業」の事業を営んでおります。

「ホテル事業」は、ホテル事業及びこれに付帯する業務（委託食堂等を含む）をしており、

「不動産賃貸事業」は、事業所及び店舗の賃貸管理業務をしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	ホテル事業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	52,262	3,768	56,031		56,031
セグメント間の内部 売上高又は振替高		20	20	20	
計	52,262	3,789	56,051	20	56,031
セグメント利益	5,078	2,096	7,175	2,240	4,934
セグメント資産	23,721	6,315	30,037	44,629	74,667
その他の項目					
減価償却費	2,264	352	2,616	126	2,742
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	2,617	442	3,060		3,060

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 - (2) セグメント資産の調整額44,629百万円は、全社資産であります。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない余資運用資金(現金及び有価証券)であります。
 - (3) その他項目の減価償却費の調整額126百万円は、主に各報告セグメントに配分していないソフトウェアに係るものであります。
2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額 (注)2
	ホテル事業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	53,431	3,804	57,236		57,236
セグメント間の内部 売上高又は振替高		20	20	20	
計	53,431	3,825	57,256	20	57,236
セグメント利益	4,987	2,016	7,003	2,305	4,698
セグメント資産	24,324	6,248	30,573	48,652	79,225
その他の項目					
減価償却費	2,296	375	2,671	126	2,797
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	2,452	304	2,756		2,756

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 - (2) セグメント資産の調整額48,652百万円は、全社資産であります。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない余資運用資金(現金及び有価証券)であります。
 - (3) その他項目の減価償却費の調整額126百万円は、主に各報告セグメントに配分していないソフトウェアに係るものであります。
2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	905.66円	953.71円
1株当たり当期純利益	62.19円	57.30円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	3,689	3,399
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	3,689	3,399
普通株式の期中平均株式数(千株)	59,324	59,324

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	53,727	56,577
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)		
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	53,727	56,577
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の 普通株式の数(千株)	59,324	59,324

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【資産除去債務明細表】

(資産除去債務関係)注記において記載しておりますので、省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	14,141	26,609	42,952	57,236
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,309	1,668	4,135	4,959
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	878	1,119	2,831	3,399
1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	14.81	18.87	47.72	57.30

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	14.81	4.07	28.85	9.58

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年 3月31日)	当事業年度 (平成30年 3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,766	29,378
売掛金	1 3,395	1 3,844
有価証券	2 3,768	4,300
貯蔵品	535	606
前払費用	144	50
繰延税金資産	517	680
未収入金	1 397	1 387
その他	184	176
貸倒引当金	4	5
流動資産合計	35,706	39,421
固定資産		
有形固定資産		
建物	14,349	14,460
構築物	100	95
機械及び装置	1,015	991
車両運搬具	16	18
工具、器具及び備品	1,426	1,485
土地	3,113	3,113
有形固定資産合計	20,021	20,165
無形固定資産		
借地権	853	853
その他	849	649
無形固定資産合計	1,703	1,503
投資その他の資産		
投資有価証券	2 6,806	2 7,881
関係会社株式	391	391
長期貸付金	3	4
長期前払費用	69	60
敷金及び保証金	3,329	3,328
繰延税金資産	2,464	2,288
その他	2,068	2,068
投資その他の資産合計	15,133	16,022
固定資産合計	36,859	37,691
資産合計	72,565	77,113

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1 1,160	1 1,306
未払金	1,211	850
未払法人税等	304	1,084
未払消費税等	434	526
未払費用	1 1,944	1 2,753
前受金	858	949
預り金	286	348
前受収益	1 435	1 467
賞与引当金	1,136	1,137
建物解体費用引当金	-	287
その他	121	127
流動負債合計	7,894	9,838
固定負債		
退職給付引当金	5,417	5,648
資産除去債務	984	995
建物解体費用引当金	299	-
長期預り金	1 4,409	1 4,402
その他	121	216
固定負債合計	11,232	11,263
負債合計	19,127	21,102
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,485	1,485
資本剰余金		
資本準備金	1,378	1,378
利益剰余金		
利益準備金	371	371
その他利益剰余金		
別途積立金	40,141	40,141
繰越利益剰余金	9,228	11,607
利益剰余金合計	49,741	52,119
自己株式	75	75
株主資本合計	52,529	54,907
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	908	1,103
純資産合計	53,437	56,010
負債純資産合計	72,565	77,113

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	1 55,475	1 56,678
材料費	1 11,995	1 12,509
販売費及び一般管理費	1, 2 38,665	1, 2 39,598
営業利益	4,814	4,570
営業外収益		
受取利息	1 33	1 32
受取配当金	1 55	1 63
その他	131	127
営業外収益合計	220	222
経常利益	5,035	4,793
特別損失		
固定資産除却損	4	1
特別損失合計	4	1
税引前当期純利益	5,030	4,792
法人税、住民税及び事業税	1,138	1,596
法人税等調整額	290	72
法人税等合計	1,428	1,523
当期純利益	3,602	3,268

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本							自己株式	株主資本 合計	評価・換算 差額等 その他 有価証券 評価差額金	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金		利益剰余金							
		資本 準備金	利益 準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計					
				別途 積立金	繰越利益 剰余金						
当期首残高	1,485	1,378	371	40,141	6,575	47,088	75	49,875	756	50,631	
当期変動額											
剰余金の配当					949	949		949		949	
当期純利益					3,602	3,602		3,602		3,602	
自己株式の取得							0	0		0	
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）									152	152	
当期変動額合計	-	-	-	-	2,653	2,653	0	2,653	152	2,805	
当期末残高	1,485	1,378	371	40,141	9,228	49,741	75	52,529	908	53,437	

当事業年度(自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本							自己株式	株主資本 合計	評価・換算 差額等 その他 有価証券 評価差額金	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金		利益剰余金							
		資本 準備金	利益 準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計					
				別途 積立金	繰越利益 剰余金						
当期首残高	1,485	1,378	371	40,141	9,228	49,741	75	52,529	908	53,437	
当期変動額											
剰余金の配当					890	890		890		890	
当期純利益					3,268	3,268		3,268		3,268	
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）									194	194	
当期変動額合計	-	-	-	-	2,378	2,378	-	2,378	194	2,573	
当期末残高	1,485	1,378	371	40,141	11,607	52,119	75	54,907	1,103	56,010	

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品

移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定額法(一部定率法)

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3～47年

(2) 無形固定資産

ソフトウェア

社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 建物解体費用引当金

建物解体に関連して発生する支出に備えるため、解体費用等の発生見込額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は次のとおりです。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(13年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する資産・負債

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期金銭債権	110百万円	119百万円
短期金銭債務	406 "	430 "
長期金銭債務	38 "	38 "

2 担保資産

商品券発行等に係る供託金として、有価証券及び投資有価証券を東京法務局に差し入れております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
有価証券(国債)	68百万円	
投資有価証券(国債)	90 "	160百万円

(損益計算書関係)

1 関係会社との営業取引による取引高の総額及び営業取引以外の取引による取引高の総額

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	186百万円	246百万円
仕入高	4,036 "	4,196 "
営業取引以外の取引高	34 "	36 "

2 販売費及び一般管理費のうち主な項目

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
人件費	14,044百万円	14,148百万円
業務委託費	5,333 "	5,537 "
賃借料	2,937 "	3,027 "
減価償却費	2,727 "	2,782 "
水道光熱費	1,980 "	2,029 "
建物什器補修費	1,942 "	1,972 "
賞与引当金繰入額	1,136 "	1,137 "
退職給付費用	688 "	788 "

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
子会社株式	347	347
関連会社株式	44	44
計	391	391

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
賞与引当金	351百万円	348百万円
未払事業税	32 "	66 "
建物解体費用引当金		88 "
その他	134 "	177 "
繰延税金負債(流動)との相殺	0 "	0 "
計	517百万円	680百万円
繰延税金資産(固定)		
退職給付引当金	1,658百万円	1,728百万円
減損損失	895 "	841 "
資産除去債務	301 "	304 "
その他	288 "	169 "
評価性引当額	231 "	229 "
繰延税金負債(固定)との相殺	447 "	526 "
計	2,464百万円	2,288百万円
繰延税金資産合計	2,982百万円	2,968百万円
繰延税金負債(流動)		
その他有価証券評価差額金	0百万円	0百万円
繰延税金資産(流動)との相殺	0 "	0 "
計		
繰延税金負債(固定)		
有形固定資産	43百万円	37百万円
その他有価証券評価差額金	403 "	488 "
繰延税金資産(固定)との相殺	447 "	526 "
計		
繰延税金負債合計		
繰延税金資産純額	2,982百万円	2,968百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9%	
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.3%	
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.2%	
住民税均等割等	0.2%	
評価性引当額	0.2%	
所得拡大促進税制による税額控除	2.2%	
その他	0.4%	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.4%	

(注) 当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	14,349	1,879	1	1,766	14,460	91,060
	構築物	100	10	-	15	95	743
	機械及び装置	1,015	185	2	206	991	2,932
	車両運搬具	16	5	0	3	18	33
	工具、器具及び備品	1,426	584	0	524	1,485	7,674
	土地	3,113	-	-	-	3,113	-
	計	20,021	2,665	4	2,517	20,165	102,444
無形固定資産	借地権	853	-	-	-	853	-
	ソフトウェア	849	64	-	264	649	658
	計	1,703	64	-	264	1,503	658

(注) 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	上高地帝国ホテル 帝国ホテル本社	従業員寮増築 タワーオフィスエレベーター改修 本館高層階熱源システム更新 本館レストラン「嘉門」改修	601百万円 276 〃 175 〃 127 〃
機械及び装置	帝国ホテル大阪	レストラン「カフェ クベール」新規開店	89 〃
工具、器具及び備品	帝国ホテル大阪 帝国ホテル本社	宴会場音響・調光設備更新 レストラン「カフェ クベール」新規開店 本館レストラン「嘉門」改修	75 〃 49 〃 21 〃

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	4	3	3	5
賞与引当金	1,136	1,137	1,136	1,137
建物解体費用引当金	299	33	44	287

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都杉並区和泉二丁目8番4号　みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号　みずほ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法によって行います。なお、電子公告は当社ホームページに掲載し、そのURLは次のとおりであります。 https://www.imperialhotel.co.jp
株主に対する特典	なし

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類、有価証券報告書の確認書

事業年度 第176期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

平成29年6月29日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書

事業年度 第176期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

平成29年6月29日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書、四半期報告書の確認書

第177期第1四半期(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

平成29年8月4日関東財務局長に提出。

第177期第2四半期(自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日)

平成29年11月2日関東財務局長に提出。

第177期第3四半期(自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日)

平成30年2月2日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく
臨時報告書

平成29年6月29日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年6月27日

株式会社 帝国ホテル
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 辰 巳 幸 久

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 轡 田 留 美 子

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社帝国ホテルの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社帝国ホテル及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社帝国ホテルの平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社帝国ホテルが平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年6月27日

株式会社 帝国ホテル
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 辰 巳 幸 久

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 轡 田 留 美 子

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社帝国ホテルの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第177期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社帝国ホテルの平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。